

社会福祉振興助成事業 事業評価報告書

平成28年3月

独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業審査・評価委員会

はじめに

独立行政法人福祉医療機構が行う社会福祉振興助成事業では、多様な社会資源がそれぞれの地域で有機的に連携・協働し、それぞれの得意とする活動を行いながら人と地域の絆を作り直し、我が国らしい支え合いと活気のある地域社会の再生を目指すシステムづくりに取り組み、高齢者・障害者が自立した生活が送れる社会、また、子どもたちが健やかに安心して成長できる活力ある社会の実現を目指すことを助成の目的としている。

平成2年度の本格的な助成事業開始以来、約13,000件の事業、総額約700億円に及んでいる。この25年の間に、NPOなどの民間福祉活動団体が実施する福祉活動は大きく躍進し、ボランティアやNPOなどの言葉なども社会に広く浸透した。

これまで行政が行ってきた公共サービスは、その内容によってはNPO等の主体が提供する方が効果的、効率的な場合もあるとされ、社会福祉基礎構造改革に始まる介護保険制度の導入など、その担い手が「官」から「民」へ移りつつある。その「民」としてNPOへの期待の高まりとともに、その期待に応えるべく政策動向や国民ニーズを踏まえ着実に役割を果たしつつある。

本委員会においては、この助成の仕組みが有効に機能し、効率的な資源配分がなされるよう、助成事業の実施状況や成果を評価することにより、優れた活動を見つけ普及に結びつけるだけでなく、改善点や課題なども積極的に抽出し、その後の助成事業の選定や助成の仕組みの見直しに反映させる、いわゆる「PDCA」のサイクルへ活かしていくことに努めるとともに、地域における新たな福祉課題を発掘し、新たな政策開発へ結びつけることにも取り組むこととしている。

本報告書は、本年度の本委員会のこうした取り組みのあらましをまとめたものである。

限られた資源を有効に配分し、より効果の高い助成事業とするためにも、事業評価を踏まえた成果の更なる活用に努め、より積極的な助成事業の展開を期待したい。

平成28年3月
社会福祉振興助成事業審査・評価委員会

社会福祉振興助成事業 事業評価報告書

目次

はじめに

目次

1. 社会福祉振興助成事業の事業評価について	1
(1) 事業評価の目的	1
(2) 事業評価の方法	2
2. 平成27年度の事業評価について	4
(1) 今年度の事業評価	4
(2) 平成26年度助成事業の評価結果	5
ア 自己評価の概要	5
イ ヒアリング評価の概要	7
ウ 書面評価の概要	12
エ まとめ	14
(3) フォローアップ調査結果の概要	16
ア 助成事業の継続について	16
イ 継続事業の状況について	17
ウ 助成事業の成果について	18
エ 組織運営上の課題について	19
オ まとめ	20
3. 事業評価結果から見えてくること	22
(1) 活動テーマから	22
ア 東日本大震災で被災された方等の支援に関する事業	22
イ 高齢者などの孤立防止・認知症対策に関する事業	26
ウ 児童虐待防止に関する事業	30
エ 貧困・格差対策に関する事業	35
オ 先駆的・独創的な取り組みをしている事業	39
カ 課題のみられた事例	41
(2) 助成金の有効活用の観点から	42
ア 分野横断的に事業に取り組まれた事例	42
イ 助成事業実施により連携が拡大した事例	43
ウ 制度化・モデル化につながった事例	44
エ 助成事業が自立し、新たな展開を行っている事例	47
オ 助成事業を通じて団体のステップアップにつながった事例	48
カ 課題のみられた事例	49
4. まとめ	50

おわりに